

平成 26 年度第 1 回奈良市総合計画審議会会議録		
開催日時	平成 26 年 10 月 6 日（月）午前 9 時 30 分から午前 11 時 15 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階第 22 会議室	
議 題	1 正副会長選出 2 会議の公開及び傍聴要領について 3 奈良市第 4 次総合計画について 4 後期基本計画策定スケジュールについて 5 小委員会及び部会の設置について 6 小委員会の会長及び委員、並びに部会の会長及び委員の指名について 7 報告（奈良市のまちづくりに関する市民アンケートの概要、基礎調査結果の概要） 8 今後の会議日程について	
出席者	委 員	秋葉委員、伊藤委員、梅林委員、岡田委員、木村委員、小山委員、坂上委員、佐久間委員、佐藤茂雄委員、佐藤由美委員、澤井委員、下谷委員、谷掛委員、玉置委員、中川委員、中山委員、林委員、藤本委員、山下委員、山本あつし委員、山本善徳委員、遊津委員【計 22 人出席】 (植野委員、埋橋委員、藤沢委員、松田委員は欠席)
	事務局	仲川市長、津山副市長 【総合政策部】岩井部長、染谷参事、 【総合政策課】中西課長、仲野主幹、玉置課長補佐、高本主任、譯田
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長に伊藤委員を選任し、副会長に澤井委員を選任した。</li> <li>・総合計画審議会について、会議を公開するものと決定し、傍聴要領を決定した。</li> <li>・審議会に小委員会及び部会を設置することを決定した。</li> <li>・小委員会の会長及び委員、部会の会長及び委員を指名した。</li> </ul>	
担 当 課	総合政策部総合政策課	
<b>議事の内容</b>		
開催にあたり、市長の挨拶があり、委員紹介を行った。		
1	正副会長の選任 委員の互選により、会長に伊藤委員、副会長に澤井委員が選任された。	
2	会議の公開及び傍聴要領について 「奈良市総合計画審議会傍聴要領（案）」【資料 5】について、事務局から説明。	

総合計画審議会については会議を公開するものと決定し、傍聴要領についても事務局案どおり決定。	
3	奈良市第4次総合計画について 「奈良市第4次総合計画書」【資料6】について事務局から説明。
4	後期基本計画策定スケジュールについて 「第4次総合計画後期基本計画策定スケジュール」【資料7】について事務局から説明。
5	小委員会及び部会の設置について 「奈良市総合計画審議会及び小委員会・部会について」【資料8】について、事務局から説明。 小委員会及び部会を設置することについて事務局案どおり決定。
6	小委員会の会長及び委員、並びに部会の会長及び委員の指名について 「小委員会委員及び部会委員名簿（案）」【資料9】について、事務局から説明。説明のとおり会長より指名。
7	報告 「奈良市のまちづくりに関する市民アンケート報告書（概要）」【資料10】、「基礎調査結果の概要」【資料11】について、事務局から説明。
<b>【質疑・意見の要旨】</b>	
会 長	<p>ありがとうございました。ただいま、事務局のほうから、アンケートの結果及び基礎調査についてご報告いただきました。</p> <p>先ほど事務局からもありましたように、当総合計画審議会につきましては、この後、部会及び小委員会にわかれて、具体的な議論を進めていくことになっております。</p> <p>ここでは、後期基本計画についての課題あるいは計画の文章について、個別の議論をしていただくこととなります。本日は初回の全体会議でございますので、なかなか細かいところまで踏み込めませんが、せっかくほとんど全員がご出席いただいておりますので、これから少し時間をいただいて、奈良市の将来に向けた課題や今後取り組んでいくべき方向性、あるいは今説明いただいた市民アンケートの結果、基礎調査の結果を材料にいただき、それぞれの委員の専門の立場から、ご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>本日初めて顔を合わせる委員もたくさんいらっしゃると思いますので、自己紹介も兼ねて、この機会に率直なご意見をいただければと思います。中身までまだまだ十分ご理解いただけていないかと存じますので、全体的な奈良市の将来像、将来に向けての思いをお聞かせいただければと思います。</p> <p>どなたか、ご発言いただける方はいらっしゃいますでしょうか。もしなければ、僭越ながら、こちらからご指名させていただいてよろ</p>

しいでしょうか。

まずは、さきほどせっかく部会が決まりましたので、それぞれ部会に所属されている委員の方お一人ずつ、私のほうから指名をさせていただきます。ご意見をお聞かせいただければと思います。

では、恐れ入りますが、第一部会の子育て・教育に関しまして、小委員会の委員でもございますが、ご専門の立場から、奈良市の将来にとって、子育てと教育を考えるうえで、こういうことが大事ではないかというご意見がございましたら、佐久間委員、簡単にいただけますでしょうか。

佐久間委員 感想ですけれども、奈良市はアンケートの結果にもありますように、非常に高齢者に対しては住みやすいし、愛着もあって、いい結果が出ていると思いますが、せっかくの資料に関して、単純集計だけで、クロス集計がないので、もう少し深く知りたいと思います。例えば、年齢別に見たときに、いろいろな項目にどのように関わっているのか、ということと、また、15～16ページにある、「よくできている」、「まあよくできている」というものと、そうでないものの割合、重要度をどう考えているのか、これが部会に関係すると思いますが、例えば施策6の義務教育と高等学校教育の充実度はやや低いですが、それに対して、これが重要なんだという割合が非常に高い。もっと言えば、若い人に関してどのように考えていくのか。学校の充実など、特に検討していかなければならないことかと思えます。

会 長 ありがとうございます。また、参考にしていただいて、今後部会等の議論で反映させていただければと思います。では、恐れ入りますが、部会からお一人ずつということで、第2部会ですが、ご専門の立場から、保健・福祉・医療ということで、山下委員、よろしく願いいたします。

山下委員 山下でございます。ありがとうございます。  
高齢者福祉、あるいは障がい福祉、地域福祉関係なので、木村委員、谷掛委員、林委員とはよく顔を合わせており、奈良市の状況はだいたい把握しています。保健、福祉、医療に関するところを考えてみました。  
1点目に、全体に関することですが、市民アンケートの回収率が34%ということで、郵送だとこれが限界だと思いますが、このようなデータの扱いに関して、郵送で返してくる層はどんな層なのか、

むしろ返してこない層が大変多いので、この辺りの扱いについての客観化をどうするのか、私は統計学が専門ではありませんので、検討をお願いしたいと思います。

調査はだれがやっても数字が出ますが、どう捉えるか、何を課題にするかをしっかり考えなければなりません。なかなか難しい問題ですが、大事です。なぜこのようなことを言うかと申しますと、市長を先頭に、奈良市民のみなさんが、共通の課題にできるかどうかにかかっていると思います。地域や暮らしの課題を共有できるかどうかということだと思います。そういったことを何とか共有していけるような努力をもっと前面に押し出していけないかと思っています。

中身について申し上げますと、来年度から介護保険法の見直しが行われて、現在の要支援1・2が、地域支援事業に切り離されます。事実上の引き締めです。確かに奈良市の介護保険では、65歳以上の17～18%の方が、要介護認定を受けておられて、このままでいくと、介護保険が財政破綻するのは間違いありません。奈良市は、中核市のほうでは割合が低い方ですが、奈良市の人口構成を踏まえると、人口減少と高齢化が一気にきますので、そういう意味では、介護保険の引き締め反対だけを言っても仕方ありませんので、地域的な受け止めをしていかなければなりません。県からは林委員が来ておられますが、地域包括ケアシステムの中身をしっかり考えていかなければならない、そういう状況にあるのだと思っています。

障がいについては、従来型の施設福祉というイメージはよろしくないかと思いますが、障がい者の最後のよりどころという面で、奈良市は非常に厳しいと感じています。

子どものことに関しては、東大や京大への進学率が全国でもトップクラスらしいですが、一方で引きこもりが多いとも聞いております。そういった青少年を育てる文化についても、福祉の側から発言させていただきたいと思っています。

会 長            ありがとうございます。非常に具体的にお話しいただきまして、非常に参考になると思います。それでは次は、第3部会で、観光、経済でございますが、佐藤委員、何かございましたらお願いいたします。

佐藤茂雄        私は奈良市民ですが、仕事はほとんど大阪、関西、あるいは日本中委員            ですが、その立場で申し上げますと、アンケートをはじめ、少し自己満足的な、内向き思考が強すぎると思います。関西、あるいは日

本の中で、奈良はどのような位置づけにあるのか、この辺りをもう少し市民のみなさんは自覚する必要があると思っています。例えば、リニアの誘致のアンケートがあり、奈良に持ってきてほしいという回答が多くなるのは当然ですが、京都のように、しつこいように「京都に持ってこい」という運動が、奈良ではうかがえません。京都の場合は、「国際観光都市である京都に来るのは当然だ」と思っていますが、奈良の場合は、「古都奈良に来るのが当然だ」と思っているのかどうか、やや疑問に思っています。それが一つの例です。

奈良を日本の中でどんな位置づけに持って行こうとしているのか、もっと広い立場からの議論がないと、自己満足で計画をつくってしまうという危険性があると思います。率直な感想を述べさせていただきました。

会 長      ありがとうございました。アンケートには出てきませんが、大事なことだと思います。奈良市民が自分たちのまちを将来どうするか、もう少し大きな声で意見を出してもらうのも大事だと思います。

それでは、第4部会でございますが、本学の教員でもある佐藤委員、都市計画の専門家から、まだ奈良市のことは十分にご存じではないかもしれませんが、何かあればよろしく願います。

佐藤由美    4月から奈良で働き始めて、いろいろと今調査を進めているところ委員            です。梅林委員にもご協力いただきながら、49の自治連合会にアンケートをさせていただくなど、まず地道なところから進めております。

今日、見せていただいた市民アンケートも大変参考になるもので、今後最後の集計まで参考にさせていただきたいと思いますが、奈良は地域別に歴史がかなり違っているので、この部分をどう捉えていくのかということが気になります。また、年齢層、特に少子化問題は人口政策のうえでこれから非常に大きな課題になってくると思いますが、若い人たちがどのようなまちに住みたいと思っているのか、あるいは奈良のどのようなところがいいと思っているのか等、もう少し詳しく知りたいと思いました。

もう1点、全体の進め方ということになりますが、部会が各部局ごとの縦割りの検討組織で、それを串刺しにするものとして重点戦略が3つ挙がっていますが、それを切り分けるだけではなく、部会間でオーバーラップしてくる部分もあると思います。都市計画も、ハ

ードだけではなく市民生活に関わる様々なものに影響してくると思いますので、それらがオーバーラップするような議論ができればいいと思います。

会 長 貴重なご意見をありがとうございました。  
それでは最後に、第5部会でございますが、市民生活、文化、環境ということで、市民により身近なところでございます。NPOの関係者でもございます、山本あつし委員、お願いいたします。

山本あつし ありがとうございます。山本あつしです。  
委員 市民生活、文化、環境が第5部会の担当になりますが、先ほども佐藤委員からオーバーラップというお話が出ました。いろんな連携が求められていると思います。異分野の連携が、これからの深刻な課題を解決していくキーポイントになり、それは奈良市についても同様です。文化は、いろんなジャンルを接着していく、オーバーラップさせていくきっかけになるものだと思います。そのようなきっかけを見いだすことによって、これから奈良市民が自分のまちに誇りを持ち、外から来られる方も、奈良はいいな、奈良に行きたいな、と思うようなまちにできるようにしたいと思います。

会 長 ありがとうございます。各部会から代表してお一人ずつご意見をいただきましたが、まだ意見交換の時間を取っていますので、私も何か発言したい、という方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。部会に関係なく、ご自由にご発言ください。

谷掛委員 山下委員からお話がありましたが、地域包括ケアということは、医療、介護、福祉にとどまらず、住まい方、自己決定、どのような生き方をしていきたいのかということを含めて、大きなところに波及していく問題になると思います。連携などを含めて、一体化という形でご議論していただくと、非常にわかりやすいと思います。地域包括ケアは、高齢者だけの問題ではなく、少子高齢化にも関わりますので、ぜひともこういう中で、いろんな分野の方と一緒に議論させていただきたいと思います。

会 長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。  
できれば、今お話いただいた谷掛委員は第2部会ということですが、それ以外、第1、第3、第4、第5部会の委員の方で、「こんなことを考えているんだ」ということがございましたら、お願いし

たいと思います。

遊津委員 奈良県の環境、地球温暖化対策をやっていますが、今回のアンケートを見せていただきまして、その前に奈良だけでは自己満足といえますか、全国的に見たときにどれだけ奈良市に魅力があるかと思っ  
て見ても、ほとんど出てきません。地味だということもありますが、奈良県全体が出てきません。一つ出てきたのは、2012 年の少し古いデータではありますが、「住みたいまちランキング」で 47 位でした。そのほか、アンケートの取り方によっていろいろあるとは思いますが、「魅力度ランキング」や「住み良さランキング」などを見ても、出てきません。

果たして、今回のアンケートを見せていただくと、「住んでよかった」という内容が、自然環境、文化財がトップクラスになっていますが、全国的、世界的に見たときに、本当にそれがずば抜けているのかな、と思います。

また、今回のアンケートにはリニアのことが書いてありますが、大きな問題で言いますと、2011 年以降はエネルギー問題が大きく変わっており、そのような背景を踏まえる必要があると思います。

また、若い方の意見を見るために年齢別の結果、また、市長がおっしゃった 2020 年に向けて考えると、私たちが取り組んでいる温暖化対策もそうですが、いろんなものが含まれてきますので、そのような目線を入れてやっていく必要があります。従来のものでさっといく、というようにはいかない、その境目のようなところにあるのではないかと思います。

会 長 ありがとうございます。ほかにもございますでしょうか。

下谷委員 旅館ホテル組合の下谷でございます。  
観光客のデータを見せていただきまして、前からわかっていることですが、遷都 1300 年以來、観光客数も宿泊者数も激減しております。観光客数のほうは、若干の伸びがありますが、こと宿泊者数に関しては依然下降しており、観光経済新聞のデータによると、今年の 4 月から 6 月は、日本の中でも最下位から 2 番目でした。これだけの世界遺産がある文化都市でありながら、なぜ下から 2 番目の宿泊者数なのでしょう。奈良はなんと言っても観光都市ですので、観光者数も宿泊者数も並行して伸びるように、伸びないことの問題点を考えていかなければ、ここで見落としてしまうと、ずっと復帰していかないと思います。これまで、奈良についてマイナスの

話しか出てきていませんが、奈良市がここで立ち上がらないと、ずっとこのような結果に終わってしまいます。

テレビでも、なぜ奈良はこれだけ世界遺産がある中で低迷しているのかが話題にのぼっていました。その辺りの問題点をきちんと考えていく必要があると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

会 長           ありがとうございます。ぜひ部会でそのような議論をしていただきたいたと思ひます。  
ほかにございますか。

岡田委員       アンケートの結果を見せてもらいまして、やはり 40 代以下の若い世代の回答者が非常に少ないのが気になります。アンケートの回収率だけではなく、市政や奈良市についての関心が、若い世代ほど低いような気がしています。特に、私は子育て世代ですが、奈良に住んでいても奈良のことがわかっていない、また、奈良市がどういう方向に行くべきなのかということをおまひ普段考えていないと思ひます。それはやはり、どうしても住んでいる地域とのつながりが薄いということがあり、地域とつながっている、人とつながっているということがあれば、その地域が良くなってほしい、また、その地域を含めて、奈良市全体が良くなってほしいというところに目が向くのですが、なかなかそこに至っていないのかなと思ひます。住んでいる地域とのつながりが深まっっていくような政策があれば、全体のほうにも生かされていくのかな、と思ひています。

会 長           岡田委員、どうもありがとうございました。まだお時間はございますが、いかがでしょうか。

梅林委員       地域の中での住民のつながりが希薄になっているということですが、私は自治連合会を代表する者で、今、参画による協働ということで、地域自治協議会ということ、条例案の改正に取り組んでいます。審議会でも審議をしていましたが、今年度 12 月に条例を改正するというおこと、その中に地域自治協議会という名前が入ることになり、審議していただいています。  
今までの地縁組織、また NPO 団体を含めて、地域と行政との関わり方が変わるということで、今取り組んでいます。先ほどからお話があるように、自治会員はどんどん減っけてきています。個々の住民のニーズが非常に多様化してあり、どう一つにとりまとめていくかと



ということで、自治会や社会福祉協議会をはじめとする各種団体を一つにまとめて、地域コミュニティを、予算も含めて自分たちで運営していこうということをしています。ぜひこの総合計画の中にも、地域自治協議会のことも含めて、少し入れていただければと思いますので、今後具体的なことも含めて、発言させていただきたいと思います

会 長 　ぜひ部会で提言していただきたいと思います。ありがとうございました。まだ時間はございますので、ほかいかがですか。

私がアンケートの結果を拝見いたしまして、取組の重要度については、程度の差はありますが、「重要である」「やや重要である」と市民の方は感じていらっしゃると思います。ところが、16 ページの評価については、「わからない」が非常に多くなっています。重要でありながら評価できないというギャップについて、何かご意見はございませんでしょうか。なぜこのような結果が現れているのかということについてですが、これも課題になると思います。

私はたぶん、市民の生活に関するいろんな施策が重要でありながら、評価できないのは、情報が伝わっていないからだと思います。この辺りの仕組みは、第5部会で、今後、施策を進めていくうえで、どうすれば市民に伝わっていくのかということが課題になるのだろうと思います。また、部会はもちろんのこと、全体会、小委員会でも議論していきたいと思っており、問題提起させていただきたいと思います。

藤本委員 　アンケートを取られるのはいいのですが、15 ページを見ていただくとお分かりだと思いますが、「よくできている」「まあまあできている」が多く、「あまりできていない」「全くできていない」の少数の意見に目を向けなければならないと思います。少数の意見こそ今後の取り組みには必要な意見だと思います。

会 長 　ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

佐久間委員 　重ねてお願いですが、ぜひクロス集計を、地域、年齢、性別ぐらいに分けて、もう少し検討して、分析していただければと思います。先ほど会長や岡田委員がおっしゃったこともそうですが、もう少し細かい分析があれば、ある程度推測ができる部分もあるのではないかと思います。特に、わからないということについて、パブコメの問題や、特に年齢別ではインターネットがどの程度使われているの

か、ホームページも年齢別の偏りがあると思いますので、その辺りを詳細に検討するようなデータがほしいと思います。

会 長 これは事務局にお願いしたいと思います。できる範囲で結構ですので、よろしく願いいたします。  
ほか、いかがでしょうか。まだお時間はありますのでお願いできればと思いますが。  
やはり、市民生活の中で、経済的な自立は非常に大事なことです。昨今の経済状況の中で、雇用問題は非常に大事だと思います。やはり、奈良市内に働く場所があって、そこに住めたら一番いいと思いますので、奈良県全体が県外就業率が非常に高く、特に奈良市民は大阪に行かれる方が多いと思いますが、奈良市内での雇用問題について、小山委員、何かありましたらお願いします。

小山委員 会長の言われるとおりで、奈良市の動きは奈良県全体の指標になるということも考えております。ベッドタウン化しており、30%近い人が大阪に通っていますが、1時間当たりの最低賃金が100円ほど違いますので、高い方に行くのは当然でございまして、若者の雇用を考える時には、奈良県だけでは考えられず、大阪とセットで考える必要がありますが、奈良県だけで解決できる雇用もあるかと思えます。  
ベッドタウン化しているということは、高齢者もたくさん増えてきます。大阪からかなりの方が帰ってきて、優秀な方も多いので、当然活用することが大きなテーマになると思います。  
また、第4次総合計画の策定には前回も参加させていただきましたが、労働分野の具体的な記述はほとんどないので、どのように入れていただけるのでしょうか。福祉には載っていますが、実際に、雇用する、働くという施策がないように思います。労働局や県の仕事かと思いますが、せっかくつくるので入れていただきたいという思いもあります。  
また、私たちが考えている少子化の問題の一番は、結婚している方は子どもが2人以上いる方も多いですが、結婚されていない、やはりその要因は、若者の給料が少ないということですので、いかに上げていくかということを経済で考えていきたいと思えます。  
特に、非正規労働者は近畿圏全体で多いですが、特に奈良と京都が多く、学生を除いても多いという面がありますので、その辺りをどのように解釈して、雇用につなげていき、収入があって結婚できる、税金を納めるという循環型社会にできるような形で考えていき

いと思います。

会 長 ありがとうございます。ほか、ございませんでしょうか。

木村委員 奈良市の火葬場はどうなっているのでしょうか。それは私の分野ではないのかもしれませんが、火葬場がいつまでもああいう状態で、歴史的に、昔の墓とか、いろいろなものを大事にしておりますので、今これから亡くなられる方のことをも大切に思って欲しいのです。みなさん火葬場を見に行ったことはありますか。大変なところですよ。ほかのまちに行きますと、ふるさとの森とか、恋人の森とか、子どもの森とか、そこに火葬場だけではなく、みなさんがくつろげる雰囲気が出ています。そうすれば、そこに新しい雇用も生まれます。障がい者やいろいろな方がなかなかお仕事につけない、補助金を出して企業に入れ込んでも、補助金がもらえるからあなたは働かなくていいということがあります。みんなが誇りをもって働ける職場、また植木なども、あちらこちらで予算を取り合うのではなく、重点的にするところを決めて、そこからずっと上がってくるようにしてはどうでしょうか。

また、小学校の給食無料化についても考えていくとか。この地域は木津川市と生駒市に若い世帯を取られている様な気がしてなりません。保育園もそうです。私の友達も、子どもたちはみんな木津川市に引っ越しました。木津川市や生駒市に流れる人口が奈良市にとどまるようにするには、何かを重点的にして、そのことによって、若者をはじめとして、みんなが底上げされる方策はないでしょうか。私はここで夢物語を言っているのかもしれませんが、思い切った施策をしないと、結局市民は、いいことをやってくれているのか、悪いことをやってくれているのか、中途半端でわかりません。もっと花火を打ち上げるようなことをすれば、徐々に全体が良くなっていった欲しいと思います。

会 長 どうもありがとうございます。まだまだご意見はあるかと思いますが、お時間の都合もございますので、こういった意見交換、みなさんのお考えを賜るお時間は終わらせていただきます。今日、たくさんの貴重なご意見をいただきましたので、今後小委員会、また各部会での議論に生かしていければと思います。

## 8 今後の会議日程について

「各会議の日程と議題について」【資料 12】について事務局から説明。

<p>資 料</p>	<p>【資料1】 奈良市総合計画審議会委員名簿</p> <p>【資料2】 奈良市附属機関設置条例</p> <p>【資料3】 奈良市総合計画審議会規則</p> <p>【資料4】 奈良市審議会等の会議の公開に関する指針</p> <p>【資料5】 奈良市総合計画審議会傍聴要領（案）</p> <p>【資料6】 奈良市第4次総合計画書</p> <p>【資料7】 第4次総合計画後期基本計画策定スケジュール</p> <p>【資料8】 奈良市総合計画審議会及び小委員会・部会について</p> <p>【資料9】 小委員会委員及び部会委員名簿（案）</p> <p>【資料10】 奈良市のまちづくりに関する市民アンケート報告書（概要）</p> <p>【資料11】 基礎調査結果の概要</p> <p>【資料12】 各会議の日程と議題について</p>
------------	--